



華々しい衣装に身を包んだ四祭典区が、神輿の後ろを威勢のよい太鼓を響かせ練り歩く。祭典区ごとに、それぞれが違うリズムを作り上げ、耳にただけでどこの祭典区が来たかが分かる。先太鼓を先頭に、心うかれる音色が重なり合う様子は、ほかの町では見られない華やかさである。鉄の輪を付けた金棒の演技も、根室ならではの雰囲気をつくりあげている。一日中の掛け合いに、声を枯らした若者に拍手を送る。子どもの成長を願いお獅子に頭をかんでもらう風景は、今も変わらず笑みを誘う。



楽しみなのは、各祭典区の山車である。歌舞伎やアニメを題材に、毎年思考を凝らした山車からお囃子が響く。手古舞の踊りが休憩の一時を飾る。祭りの楽しみ方はいろいろあるが、まさに、根室の夏を燃やし尽くした例大祭となった。真っ赤に日焼けしたそれぞれの顔には、根室をふるさとに持った誇りが満ち溢れていた。

